

No.2

2012年12月

「特集」

観光学術学会第1回大会

1. 特別講演（大橋昭一先生）
「観光学方法論研究の進展過程
—ポスト・ディシプリナリー論を中心に」
2. 特別講演（山田良治先生）
「日本における観光研究の特徴と課題」
3. シンポジウム1
「観光学の確立に向けて」
(橋本和也先生、藤巻正己先生、安村克己先生)
4. シンポジウム2
「観光研究と文化論的転回」(遠藤英樹先生、
神田孝治先生、鈴木涼太郎先生、山口誠先生)
5. 学生ポスターセッション
6. 一般研究報告

「特集」 観光学術学会第1回大会

2012年7月7日、および7月8日に和歌山大学にて、「観光学術学会第1回大会」が開催されました。特別講演、シンポジウムには数多くの聴衆が集まり、一般研究報告、学生ポスターセッションでは活発な議論が見られ、大いに盛り上がりました。観光学術学会 News Letter 第2号では、この様子を皆様にお伝えします。

1. 特別講演（大橋昭一先生）「観光学方法論研究の進展過程 —ポスト・ディシプリナリー論を中心に」

【日時】7月7日 13:30~14:10

【場所】和歌山大学 G101

特別講演として、大橋昭一先生(観光学術学会会長)から「観光学方法論研究の進展過程」と題してご講演をいただきました。ご講演では、学際的研究と言われるツーリズム研究について、そもそもディシプリンとは何か、学際研究にはどのようなものがあるのか、といったことを膨大な研究を整理して提示されました。その上で、ツーリズム研究はポスト・ディシプリナリーが最適であると指摘されました。



Japan Society for
Tourism Studies

観光学術学会

NEWS LETTER

アカデミックな観光研究の推進



大橋昭一先生

2. 特別講演（山田良治先生）「日本における観光研究の特徴と課題」

【日時】7月7日 14:10~14:50

【場所】和歌山大学 G101

特別講演として、山田良治先生(和歌山大学教授)から「日本における観光研究の特徴と課題」と題してご講演をいただきました。



山田良治先生

ご講演では、日本における観光研究の特徴と課題が整理され、観光学固有の方法論が構築されていない点や、国内に閉じた研究となっている点が指摘されました。

また、問題点の指摘だけでなく、「先行研究を重視すること」、「自分、社会、学界の常識を疑うこと」、「車の両輪としての「理論」と「実践」」といった、今後の観光研究に対する示唆に富む提案がなされました。

3. シンポジウム1「観光学の確立に向けて」 (橋本和也先生、藤巻正己先生、安村克己先生) (コメンテーター：遠藤英樹先生、神田孝治先生)

【日時】7月7日 15:30~17:30

【場所】和歌山大学 G101

1. 観光学の新たな展望 —なぜいま「観光経験」なのか
2. 「ツーリズムスケープ」
—観光現象のメタ景観論的解釈
3. 実践の学としての観光学をめざして

シンポジウム1では「観光学の確立に向けて」と題して、人類学、地理学、社会学をご専門とされている先生方によって、観光学の確立について議論がなされました。橋本和也先生(京都文教大学教授)、藤巻正己先生(立命館大学教授)、安村克己先生(奈良県立大学教授)が発表され、コメンテーターとして、遠藤英樹先生(奈良県立大学教授)、神田孝治先生(和歌山大学准教授)が登壇されました。



観光学の新たな展望についての発表

発表およびコメンテーターの先生方とのやりとりの中では、異分野の研究者間の対話の場の重要性や、観光学の知識を体系化する必要性、そして、実践の目標を共有できる可能性などが議論されました。観光学、そして、観光学術学会の今後のあり方が垣間見えるシンポジウムとなりました。



シンポジウム1の発表者・コメンテーター

(右から、橋本和也先生、藤巻正己先生、安村克己先生、遠藤英樹先生、神田孝治先生)

4. シンポジウム2「観光研究と文化論的転回」 (遠藤英樹先生、神田孝治先生、鈴木涼太郎先生、山口誠先生) (コメンテーター：橋本和也先生、藤巻正己先生)

【日時】7月8日 9:00~11:00

【場所】和歌山大学 G101

1. 文化論的転回(Cultural Turn)から観光論的転回(Touristic Turn)へ —観光を軸とした社会的想像力
2. 文化/空間論的転回と観光研究
3. 観光/文化/人類学のはざまから
4. 旅の終わり、観光の始まり
—「後期観光」とメディアツーリズムの理論研究にむけて

シンポジウム2では「観光研究の文化論的転回」と題して、主に社会学、地理学、人類学の観点から、文化論的転回(Cultural turn)を中心に、観光研究の学説史を整理されながら、議論が展開されました。遠藤英樹先生(奈良県立大学教授)、神田孝治先生(和歌山大学准教授)、鈴木涼太郎先生(相模女子大学准教授)、山口誠先生(関西大学社会学部教授)コメンテーターとして、橋本和也先生(京都文教大学教授)、藤巻正己先生(立命館大学教授)が登壇されました。



シンポジウム2の発表者・コメンテーター

(右から、遠藤英樹先生、神田孝治先生、鈴木涼太郎先生、山口誠先生、橋本和也先生、藤巻正己先生)

4人の先生方のご発表をきっかけに、コメンテーターやフロアの先生方から様々な質問が出て、議論が展開しました。観光学はもちろん、経済学や社会学、人類学、地理学などの観点を含めて議論がなされるという、観光学術学会ならではの光景で、聴衆には学生や若手研究者も数多く見られ、先生方の多角的な議論に、観光学の面白さを改めて実感していた様子でした。



フロアの先生からの鋭い質問

最後に、フロアからの「若手研究者や学生に対する期待や要望があれば」という質問に対して、鈴木涼太郎先生から「観光学術学会に軸足を置いて、様々な視点、角度から研究を進めていって欲しい」というコメントをいただきました。

5. 学生ポスターセッション

【日時】7月7日 10:00～13:00

【場所】和歌山大学 T101

学生ポスターセッションには、15組の学生がエントリーし、発表をおこないました。



ポスター発表会場の様子

ポスター発表会場では、普段の研究の成果を学生さんが丁寧に発表をし、参加者の質問に、時折口ごもりつつも、一生懸命答えていました。発表者同士での情報交換も盛んになされていました。



ポスター発表をする学生さん

今回が初めてのポスター発表という学生さんは、「論文や書籍でお名前を知っていた先生方が、実際に自分の発表に対して質問をくださり、アドバイスをいただきました。なんだか不思議な気分です。とても緊張するけど、勉強になり楽しいですね。来てよかった！」と笑顔を見せてくれました。

審査の結果、以下の3点のポスター発表が優秀ポスター発表賞に選ばれました。おめでとうございます。

梶川麻香「愛媛県喜多郡内子町本町商店街における商業構造の変化—経営者意識に着目して」

馬淵悠生、濱田あすか「生活者の視点から見た重要伝統的建造物群保存地区の重要性—愛媛県喜多郡内子町八日市・護国を事例に一」

堀野涼子、田又あすか、平野竜司、藤原佳代、山根絵美、山本彩佳「JA 農産物直売所における来店者の農業・地場農産物に対する意識調査結果—大阪府岸和田市 JA いずみの「愛彩ランド」を事例に一」

優秀ポスター発表賞を受賞した3組は、大会2日目の13:10～14:00に開かれた優秀ポスターセッション報告にて、口頭発表をおこないました。



優秀ポスター発表賞受賞者による口頭発表

学生さん達の努力の跡がよくわかるしっかりとした発表に、フロアの先生方の質問にも熱が入ります。質問され

た先生の中には、「優秀ポスター発表賞を得た学生グループの発表は非常にレベルが高かった。次回は、自分の大学からも学生に発表させ、他大学の学生さんから刺激を受けてもらいたいと思う」と言う方もいらっしゃいました。



発表を聞いた先生からの質問

優秀ポスター発表賞に選ばれた学生さんに、今回のポスター発表に参加した感想を聞くと、「発表に向けて準備する中で学生同士、お互いの考えを交換することができて良かった」「一生懸命研究した成果をこうして認めてもらえて、とても嬉しい」といった声が聞かれました。

6. 一般研究報告

一般研究報告は、4会場でおこなわれ、計23件の一般研究報告がなされました。



一般研究報告で質問に答える発表者

今回、特に若手研究者や院生の発表が目立ちました。

発表を終えた院生に聞くと「普段、大学内で発表する時とは違った観点から、重要な指摘をたくさんいただきました。博士論文に活かすとともに、今後『観光学評論』に論文を投稿したいと思っている。」と研究意欲を高めていました。

観光学に関する学会は数多くありますが、学術に特化した学会は珍しい状況です。大学院生にとって、研究成果を発表し、学術的な議論ができる場が求められていたのでしょう。

終了後は、和歌山大学学生会館の食堂で、懇親会がおこなわれました。



懇親会の様子

学会の感想が話し合われたり、発表の場では時間の都合で尽くせなかった議論が随所でなされたり、新たな出会いが見られたりと、今後の学会の発展を予感させる活発な懇親会となり、観光学術学会第1回大会は幕を閉じました。

(文責：岡本健)